



■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

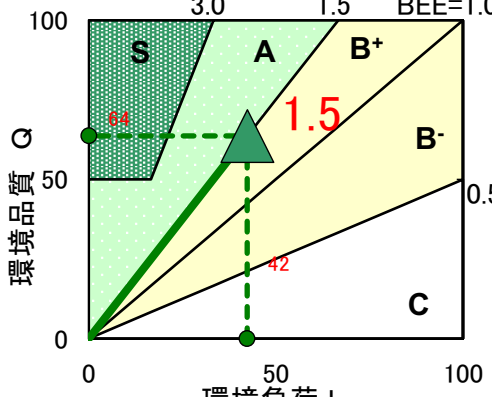
評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)名古屋市中区正木三丁目開発計画	階数	地上15F	 図を貼る場合はシートから除してください
建設地	名古屋市中区正木三丁目701番、707番	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	129 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年12月10日	
敷地面積	664 m ²	作成者		
建築面積	267 m ²	確認日	2021年12月10日	
延床面積	2,956 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.5

★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B-:★★ C:★



環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

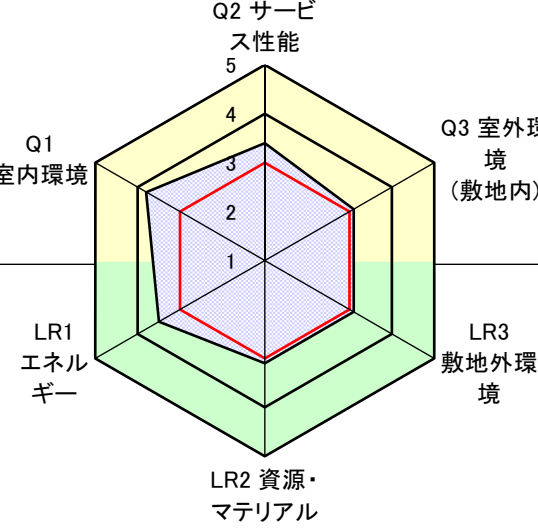
☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30%

標準計算

項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンサイト	オフサイト	合計
①参照値						100%
②建築物の取組み						84%
③上記+②以外の						84%
④上記+						84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



Q2 サービス性能: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR3 敷地外環境: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR1 エネルギー: 3
Q1 室内環境: 3

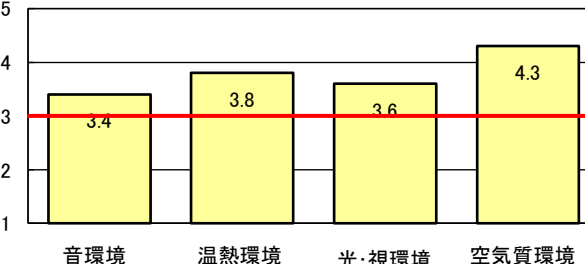
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.5

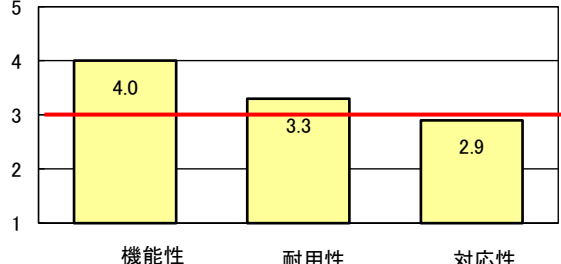
Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8



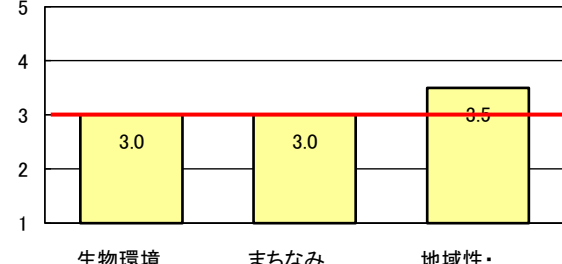
Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4



Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

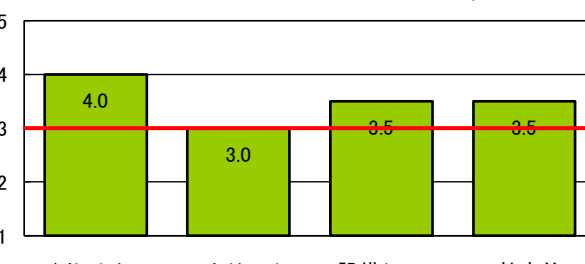


LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

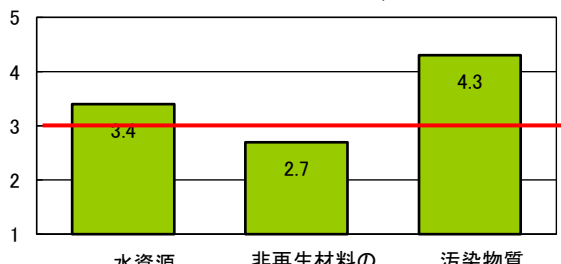
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5



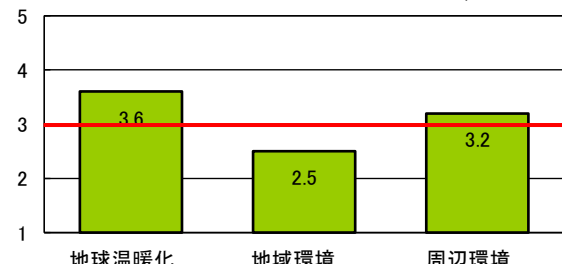
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1



3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画建物は、交通拠点に近い市街地の中にあり、騒音や夜間照明等から住居の質の向上を目指し、敷地内の遮熱環境の緩和と共に潤いのある住宅環境に務めた。		その他
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT2を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑地や高木を多く設け、遮熱環境の緩和につとめ、中庭を設けて生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位の照明にLED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型設備機器の導入や部材の再利用可能性の向上に努めた。また、有害物質を含む材料は使用しないように努める。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 道路境界には低木・地被混植を施し、西側道路沿いには併せて中高木を配し緑のトンネルのイメージを作るなど植栽による配慮を重視した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中区正木三丁目開発計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 3.2



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。